言語活動の充実を図る国語科指導の実際⑤

－言語活動を通して筆者の考えを検証する授業の工夫－

「読むこと」の学習を進めるに当たって，書かれていることをそのまま受け入れて読むのではなく，書かれていることに対して疑問を持ったり，検証したりするなどクリティカル（批判的）に読んでいくことも大切である。

例えば，筆者の主張を自分の経験などと照らし合わせて自分の考えをもったり，示されている表やグラフと文章を比較してその使われ方が適切であるかを検証したりすることで，客観的，分析的に読み深める力を高めることができる。

次の実践は，二つの筆者の主張を具体的に調査活動や創作活動を取り入れることで検証しようと試みた実践例である。

【実践例】鹿児島市立明和中学校　穐田美奈子教諭の実践を基に作成

１　教材名　「食感のオノマトペ」（第１学年）

２　単元の目標

(1)　文章の中での効果的なオノマトペの働きをとらえ，その効果を理解する。

(2)　文章の中で，事実と意見，調査方法や調査結果を読み分け，文章の構成を理解する。

(3)　筆者のものの見方や情報を提示している意図をとらえる。

３　単元の指導計画（６時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点
1	1　「オノマトペ」とは何か振り返る。 2　「食感のオノマトペ」の働きや表現の効果に気付く。 (1)　「食感のオノマトペ」を使った表現と使わない表現を比べる。 (2)　オノマトペの表現の効果を文章にまとめる。	・　既習教材の「やまなし」（小６）や「竜」（中１）を想起させる。 ・　漫画「美味しんぼ」を使って，オノマトペから食べ物を考えさせる。また，食べ物の図を示し，どのようなオノマトペを使うか考えさせる。 ・　グループ活動を通して，どちらが相手に伝わりやすいか話し合わせ考えさせる。
2	3　筆者の調査の内容を読み取る。 (1)　筆者の行った調査方法とその結果をワークシートにまとめる。 (2)　筆者は調査結果からどのようなことを推測しているか読み取る。	・　文末表現に注目させながら，事実を述べた部分と推測を述べた部分に気付かせる。

3	4　筆者が示したグラフが情報の提示の仕方としてどのような効果をもたらしているか考える。 5　「ことば」に関する研究・調査に対する筆者のものの見方・考え方を読み取る。	・　グラフがあることの意味と効果について考えさせる。 ・　調理学者である筆者がなぜこの調査活動に興味を持ったかを考えさせる。
4	6　二つのグループでそれぞれの課題に取り組む。 課題１　アンケートをもとにしたグラフを読み取る。 課題２　オノマトペを使った詩を創作する。	・　二つのグラフを分析し，わかったことをもとに推測する。 ・　オノマトペ一覧を参考に詩を創作させる。
5	7　交流会を行い，自分の考えと筆者の考えを比較して，読みを深める。 8　全体のまとめをする。	・　交流の観点を明確にし，ねらいに沿った交流ができるようにする。

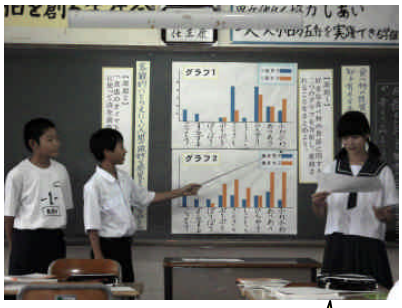
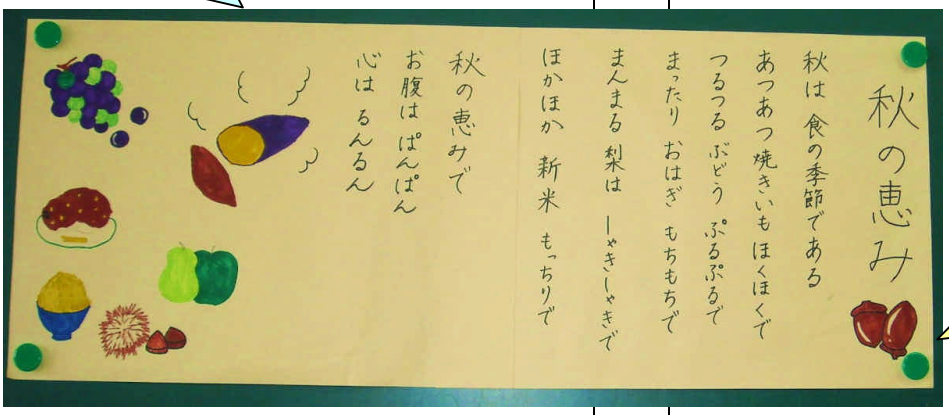
4　本時（５/５）

(1)　本時の目標

課題１・２の発表を通して，筆者の考えの妥当性を考え，自分の言葉でまとめる。

(2)　実際

過程	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1　本時の学習目標を確認する。 課題の発表を通して，筆者の考え方の妥当性を考えよう。 2　教材文を音読する。	5	・　学習計画を基に，本時の学習目標を確認する。
展開	3　筆者の「食感のオノマトペ」についての考えを確認する。 ○　食感のオノマトペは食べ物の性質や特色，個人や世代の食の好みを知る有力な手がかりとなる。 ○　日本語の豊富なオノマトペは，客観的にとらえにくい人間の微妙な感覚を，実感をもって伝えてくれる。	5	・　前時までの学習を振り返らせる。わからない生徒には，ワークシートで確認させる。 検証する筆者の主張を再確認し，交流の観点を生徒一人一人がしっかりと把握できるようにする。

展開	4　【課題１】の発表を行う。 【課題１】好きな食べ物の食感に関する二つのグラフを分析し，推測されることをまとめよう。 5　【課題２】の発表を行う。 【課題２】オノマトペを効果的に使って詩を創作しよう。 （交流の観点） オノマトペを効果的に用いた詩を創作しているか。	20	（交流の観点） 「好きな食べ物の食感」に関するアンケート結果（生徒・職員）のグラフから，世代間や男女間での違いを分析しているか，またそこから推測されることを導き出しているか。  発表の様子  秋の恵み 秋は 食の季節である あつあつ 焼きいも ほくほくで つるつる ぶどう ぷるぷるで まったり おはぎ もちもちで まんまる 梨は しゃきしゃきで ほかほか 新米 もっちりで 秋の恵みで お腹は ぱんぱん 心は るんるん 作品例
	6　筆者の考えが妥当であるか自分の考えをまとめ，発表する。	15	・　学習したことを基に，自分の考えをまとめさせる。
終末	7　全体のまとめを行う。	5	・　オノマトペの日常生活での効果的な活用について，意識付けを行う。